

# 李登輝より日本へ贈る言葉

{ 日本と台湾は運命共同体です }

日本が息を吹き返せば台湾も明るくなる、アジアのリーダーとして相応しいのは日本を於いて他にはないと私は断言します。

2013年3月11日東日本大震災2周年追悼式には各国の外交使節に交じって献花する台湾代表の姿があった、前年は世界最高の2百億円超の義援金を送った台湾を民主党政権は中国の批判を恐れて指名献花から外した。

安倍総理はフェイスブック上でも台湾の支援に言及して「大切な日本の友人」と表現し多くの台湾人が感動した。

{ この20年間に日本の国力はすっかり衰退してしまった }

かつて世界のGDPの16%を占めた経済大国が8%以下となった、そのきっかけは1985年のプラザ合意で日本経済は致命的な打撃を受けた、それまで1ドル235円のレートが150円になり2008年のリーマンショック以降更なる円高(70円台)になり当時の日本政府は何故放置したのか、そして政治家・官僚・経済学者も問題で、一番責めを負うべきは日本銀行で1990年代以降誤ったマネージメントを行ったことにある「デフレは単に経済的な問題ではなく日本の政治指導力の問題で日本は米国依存と中国への精神的隷属から抜け出されなければ今の苦境を脱せない、国際社会での日本の経済的・精神的自立こそがデフレ脱却の大きな鍵だ」と私は指摘したが第二次政権で安倍総理の今後10年で200兆円という国土強靱化計画と三本の矢「アベノミクス」を実施しようとする強いリーダーシップに大きな期待を寄せています。

{ 夢の核融合発電 }

燃料は水素で海水からとればよく、これに成功したら石油はいらない、世界のCO2問題も解決する、ウランを使わないから高レベル放射性廃棄物も出ず安全、しかし既存のエネルギーで莫大な利益を得ている連中が許さない、この新技術の開発にはメディアの力も必要にも拘らず日本のマスコミは消極的対応のみ。

{ 安倍総理へのエール }

政治に時間は必要、時を待ち耐え忍ぶ勇気こそ真の「武士道精神」あのマッカーサーも昭和天皇の武士道精神に心服した、その御製を送ります。

{ ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ 松ぞををしき人もかくあれ } P 1

### { 小我をなくして大我につく }

高等学校では西洋・東洋を問わず古典を読み、特に日本の思想家や文学者の本を熱心に読み、お蔭で日本の思想が私に深く根づくことになった、読書によって救われ人生の生き甲斐を見出した、これらの古典から得られたことは、自我を否定することで逆にすべてが肯定できる、小さな自我をなくして大河につく、それが一切を肯定することになる、私はこうして唯心論的な考え方にたどり着いた。

「人はなぜ死ぬのか」「生きるとはどういうことなのか死生観に対する苦悩が氷解」このとき、新渡戸稲造という日本人の偉大さに心底感服した、そして国際的にも大きな評価を得ている「武士道」に出会い一層心服するようになり人生の師としている。

### { 蒋介石による排日教育世代 }

恨みに報いるに徳を以ってす、と言って日本からの戦争賠償金を放棄した蒋介石を、日本人特に保守派の人々には非常に賛美していたが実は蒋介石国民党政府は徹底した排日教育を行った、その後38年間にわたる戒厳令が布かれて言論・結社の自由が全く奪われた、その為に日本統治時代に生まれ育った日本びいきである70代以上の台湾人とは対照的に50・60代の第二世代は反日的になってしまった。

戦前の日本のエリート教育は素晴らしいものだった、だから戦後におけるGHQや日教組による日本を一方向的に貶めるような教育は絶対に変えなくてはならない、それ故に安倍総理による教育改革に期待。

### { 蔣経国学校 }

蒋介石の長男、蔣経国は14歳の時、モスクワに行って共産党員を養成する東方大学で教育を受け登小平とも同期だった、蒋介石が起こした上海クーデターで息子の蔣経国は人質としてシベリアに送られて強制労働に就かされた、同夫人はその時、力になってくれたロシア人女性だった。

彼に身近に接して凄みを感じた一つは行政院長の時、父親の蒋介石にできなかった親戚にあたる人事院局長の汚職をさばいて15年の刑を言い渡したこと。彼は間違いなく一人の政治家だった、彼のもとで6年間国務大臣を務めた、81年に台湾省主席、84年に副総統に指名されたが私の日本的な部分を評価されて気に入られたようだ、87年に戒厳令は解除され新聞や報道規制も解かれ政党結社の解禁によって民主進歩党が結成された。1988年に蔣経国が亡くなり私が憲法の定めにより総統に就任、国民党の有力者を差し置いて台湾人である私が総統になるとはだれも予想していなかった。

### { 国民党との戦い }

党こそ国であるという「党国」体制がまかり通っていたが総統の直接選挙制で全国国民代表大会において多数決で決定した、94年憲法修正時に「国民による直接選挙」案が通過し、96年3月から施行されて今のような民主化の成果をうることができた。

### { 一心一徳団結 }

1988年第七代総統に就任したときの所信、第八代の時は「中華民族の新しい時代を作ろう」1996年第九代就任時には「主権が民にある時代だ」として選挙キャンペーンでも「国民の声に耳を傾けよう・民主改革を徹底的に推し進めよう・大台湾を基礎にして新しい文化を展開しよう」と現在の台湾を作り上げてきた。

### { 中国人には現世と私しかない }

中国人の伝統的価値観の「家産制」は家の財産の事で国家より社会より「私」を優先し金を儲けて家族・子供・子孫の為に使おうとするもので中国人が追及するのはお金と権力だけ役人も国や人民の事は眼中になくひたすら私腹を肥やす。

### { 台湾モデル }

日本の素晴らしい点の一つは明治維新によって東西文明の融合を行ったこと、中国では決して起こらなかった。

日本の統治下で日本式の教育と社会改革により台湾は徐々に伝統の束縛から脱して新しいスタートを切った。

中国を訪れた今の台湾の若い人に台湾と中国はどう違うのかと聞くと、ほとんどの人が「考え方が根本的に違う」と答える、法律を遵守・時間を守るという基本的なことから、中国が「人権」に目覚めるのはまだまだ先の事、経済が発展しているように見えても政治改革は少しも進んでいないように思える。

### { 一国二制度はあり得ない }

中国に統一されるべきですが世界の潮流である民主・自由・均富の制度に合致して大陸・台湾・香港の力を纏めてこそ地域の安定に有益となる、閉鎖的な中国ではアジアの平和と安定に脅威を与えることになる、中国の共産主義と台湾の資本主義の共存は可能とする一国二制度は明確に拒否した。

### { 台湾にとっての尖閣 }

尖閣諸島の近海は古くから豊かな漁場で沖縄の漁民だけではなく台湾の漁師も漁をしていたが台湾に帰属したことはありません、これは疑いようのない事実です、しかし第二次大戦で日本が敗北すると沖縄は米国へ、台湾は国民党政府へ、そのまま台湾と沖縄の漁民は漁場を共有して1972年尖閣諸島は沖縄と共に日本に返還された、日本政府は台湾と沖縄の漁民と一緒に漁をすることを理解せず領土侵害であると台湾漁船を排斥して漁業交渉は中断していたが安倍総理の指示のもと2013年4月合意に達し協定は調印され私としては歴史的快挙と快哉を叫びたいほどでした。

### { 安倍総理の断固とした態度 }

中国漁船が海上保安庁の船に体当たりしてきたとき当時の菅直人総理大臣は逮捕した漁船の船長を直ちに釈放、韓国に対しても李明博大統領が外交ルートを破って竹島に上陸したことに対して野田総理は何もできないどころか笑って握手していた、安倍晋三氏は総理大臣になって訪米しオバマ大統領に会い「尖閣諸島は日本の領土だ、一歩たりとも外国の侵略を許さない」とここまではっきりとした態度を示した総理大臣はいない。

### { 公と私を明確に区別する }

権力を持つ指導者は「公私の別」をはっきりさせることを肝に銘じておくべき、総統在任中は家族・親族はもとより父の友人にさえあまり会わないように心がけ、父からも頼まれることは一度もなく、父が亡くなるときに心から感謝した。

### { 台湾で最も敬愛された日本人 }

後藤新平は1898年民生長官として台湾に赴任して8年7ヶ月、実務のリーダーとして大きな足跡を残した。

当時の台湾は住民の文化・宗教の異なる漢民族と原住民からなり匪賊が横行して治安が悪く、アヘン吸飲者・伝染病の蔓延・毒蛇の跋扈する瘴癘の地だった、産業は見るべきものがなく司法・行政・経済いずれの面からも未開発の地域だった、こうした悪条件下で後藤が断行したのは人事の刷新と人材登用、台湾でひと稼ぎしようとしか考えていなかった高等官以下1080名の官吏全員を内地に送り返し替わって優秀な人材を配置した。

次に匪賊の撲滅で劇的に改善、三番目は住民による自治制度と道路工事などを行わせた、第四は疫病の撲滅で大きな成果を上げた、加えて医療行政を進め、

上下水道を整備し衛生環境のインフラを整えた、教育面も力を入れ公立学校を建て初等教育の普及に努めた。

植民地統治を教育から始めたことは世界で類を見ない、近代的な国民意識を養成することになった、台湾事業公債を発行することで土地調査・改革の実施、縦貫道路の建設・築港も可能、ダムと水力発電所の完成は農業の生産性を飛躍的に高め、台湾は工業化に向けて大きな一歩を踏み出した。

三大専売法も制定、台湾銀行も設立、これら基本的インフラを整備、更に産業開発を積極的に行い、砂糖・樟脳・塩・お茶・米の増産と森林の開発などで経済は正しい軌道に乗ることとなった。

### { 八田興一が造った地下水路 }

給水路1万km、排水路6千km、防水堤防2百kmは全て合計すると万里の長城よりも長い、この完成で世界の土木界からは驚嘆と称賛の声が沸き上がった、これは「八田ダム」とも呼ばれ台湾の人々はこれらの功績を称え八田銅像と妻の墓も建てられ命日には慰霊祭が行われている。

### { 後藤新平の回顧録 }

遺稿とも云うべき30年の回顧録で「台湾は3千年の太古から一躍にして、20世紀の文化に飛び込んだ、土木・教育あらゆる施設でむしろ内地のそれ等に優れるものも少なくない」と

後藤新平のように強いリーダーシップを持った優れた指導者を今こそ日本・そして世界は必要としている。

### { 若者に自信と誇りを }

日本人を対象とした「日本李登輝学校台湾研修団」を開催、台湾の歴史や日本との関係を知って欲しいと毎年春秋二回、一流の講師に日本語で、最終日には私も講義、2013年秋で20回、卒業生も800人近くになりました。

素晴らしい日本を築くために若い人が立ち上がり行動を起こすことを私は心から期待し、台湾の人達と力を合わせ・アジアの人と世界に貢献して下さることを願っています。